

成果	・ グランドデザインに年齢ごとのねらいや0,1,2歳児の保育について大切にしたいこと等を記載し、園全体が日々の保育で意識することを心がけた。その上で、動画視聴（0,1,2歳児）や公開保育（3,4,5歳児）の研修を行い、グランドデザインの重点目標である『言葉』について協議をしたことで、さらに保育についての考えが深まった。 ・ これまでの研修を受け、3歳以上児は全クラス公開保育を行った。中条すこやかこども園だけでなく公立3園で共通して行い、それぞれの園の公開保育を見て協議会に参加したことで、公立園として保育と教育の質の向上につながった。 ・ コドモンを活用し、園だよりクラスだよりを発行し、園行事だけでなく保育について園の思い、担任の思い、子どもの姿（写真を多く）を知らせたことで、園の全職員や保護者にクラスの様子や保育で大切にしていることが伝わり、園内で各クラスの保育について今何を大切にしているのかの共通理解と、保護者から保育についての理解を得た。 ・ 学年やクラスで保育についての話し合いの時間を持った。その中で保育で大切にしたいことを保育者同士で話せたことが、より良い保育の実践につながり保護者から信頼を得る保育につながった。
課題	・ 職員の資質向上が園の教育と保育の質の向上につながることは職員の共通理解の上で、やり方や視点の置き方等で、研修に対する思いや態度に職員間で差があった。 ・ シフトが多く、月案週案クラスだより等を作る主担任は保育事務をする時間が限られた。 ・ 特別支援教育講演会を14:00～16:00とし、夜の講演に出にくい勤務時間の職員が参加することができた。ただ、保育中のため参加できる人数には限りがあった。 ・ 公立園から私立園に移行することで保護者が戸惑ったり疑問に感じたり解らなかつたりすることが予想される。 ・ 未就園の子ども的人数が少ないとはいえ、支援センターの利用人数が年々少なくなっているので利用者数を増やし、活用する方法を考える。
改善策	・ 各園研修担当者で会議を持ち、公立園が同じ研修を行うことを確認し、それを各園で再確認する。研修後は研修成果を報告し合い、研修することが保育の質の向上につながることを共通理解とする。 ・ 保育事務をする時間や、職員が研修にかけられる時間を確保するため、午睡当番や休憩時間を工夫して、少しの時間でも子どもから離れて事務をする時間を確保する。困っていること、工夫していることを主管課に報告し、一緒に考える。 ・ 『自由遊びの時間を通してやりたいことを自分で工夫して遊ぶ楽しさを味わい、積み重ねていき、自主的に遊び生活する子どもを育む。』という、公立中条すこやかこども園の良いところ、保護者から支持されていたところを残しながら、法人の特色を生かし、子どもに寄り添った保育を進められるように研修を行う。 ・ 魅力的な活動をすることはもちろんだが、保護者アプリに支援センターの予定を記載する。さらに等他の支援センターにもおたよりを置かせていただき、予定を知らせる。一度来た親子に知り合いを誘って来てもらうように話をする。などの広報活動に力を入れる。 ・ 公立中条すこやかこども園職員が2名引継ぎ職員として配置されていることで、保護者と子どもが安心して園生活を送ることができるようにする。（保護者が声をかけ、相談しやすい環境を整える等） ・ 支援が必要な子どもに対して、面談、個別支援計画に加え、ぱすノートの活用を含めた支援の方法を園、保護者と共通理解し、年長児については就学する小学校と共通理解し、連携する。 ・ 子どもだけではなく、職員も園と学校を行き来して、お互いの行っていることを理解し、架け橋プログラムを実践して、次年度につなげる。